

## 鳥獣被害防止総合対策事業の改善計画

事業実施主体名:小牧市鳥獣被害防止対策協議会

### 1 事業の導入及び取組の経過

防除に関する事業展開(協議会単独実施による侵入防止柵等の購入補助制度)、被害防止体制の強化・担い手確保についての取組み(協議会単独実施による狩猟免許取得補助制度)。

### 2 当初事業実施計画の目標が未達成である原因及び問題点

・カラス対策については、1市町村の対応だけでは被害軽減は困難であるため。

### 3 実績及び改善計画

(改善計画は、下記の様式により作成すること。なお、要領に定める事業実施状況報告書の写しを添付すること。)

| 区分              | 指標       | 対象鳥獣 | 被害防止計画の達成状況 |              |          |          |          | 達成率(%) | 備考    |
|-----------------|----------|------|-------------|--------------|----------|----------|----------|--------|-------|
|                 |          |      | 目標(R6年)     | 基準年度の実績(R2年) | 1年目(R4年) | 2年目(R5年) | 3年目(R6年) |        |       |
| 被害防止計画(被害の軽減目標) | 被害金額(千円) | カラス  | 1,053       | 1,170        | 1,116    | 1,292    | 1,846    | -577.8 | 1,530 |
|                 | 被害金額(千円) | 全鳥獣  | 1,766       | 1,963        | 1,908    | 2,851    | 2,775    | -412.2 | 2,566 |

(注)1 指標は、被害防止計画と整合をとること。

2 被害防止計画の達成状況のうち、「目標」、「基準年度の実績」は被害防止計画から転記し、それ以外は被害防止計画に基づく取組実績を記載すること。

3 各指標ごとの合計も記載すること。

4 被害防止計画を見直し、目標の変更を行った場合は、備考欄に新たな目標を記載すること。

5 対象鳥獣は、計画全体が低調の場合は「全鳥獣」と記載し、一部鳥獣が低調の場合はその鳥獣種名を記載する。また、必要に応じて適宜行を追加すること。

(様式)施設の利用計画に係る部分(整備事業を実施した場合に記載)

| 区分       | 指標           | 事業実施後の状況   |                   |             |             |             | 改善計画               |             |             |             |
|----------|--------------|------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|--------------------|-------------|-------------|-------------|
|          |              | 目標<br>(R年) | 計画<br>策定時<br>(R年) | 1年目<br>(R年) | 2年目<br>(R年) | 3年目<br>(R年) | 改善計<br>画策定<br>(R年) | 1年目<br>(R年) | 2年目<br>(R年) | 3年目<br>(R年) |
| 鳥獣被害防止施設 | 利用量<br>(km)  |            |                   |             |             |             |                    |             |             |             |
|          | 利用率<br>(%)   |            |                   |             |             |             |                    |             |             |             |
|          | 収支差<br>(千円)  |            |                   |             |             |             |                    |             |             |             |
|          | 収支率<br>(%)   |            |                   |             |             |             |                    |             |             |             |
|          | 累積赤字<br>(千円) |            |                   |             |             |             |                    |             |             |             |

- 注) 1 利用率は、当該年度の数字を目標年度の数字で除して求める。  
 2 収支率は、収入／支出×100とする  
 3 目標年が4年以上の取組等、必要に応じて、適宜欄を追加して記入すること。  
 4 協議会の構成員が申請する場合は、参画協議会名も記載すること。  
 5 区分の欄は、鳥獣被害防止施設、食肉利用等施設、捕獲技術高度化施設等と記載すること。

4 改善方策

(要領に定める事業評価報告書の事業効果及び評価の欄を参照し、問題点の解決のために必要な方策を、事業内容の見直しを含め具体的に記述すること。)

・カラスについては、追い払いの実施やエサを与えないというような環境管理の重要性の周知を続けていく。

5 改善計画を実施するための推進体制

鳥獣被害防止総合対策協議会を中心に、作成した改善計画の実施を行う。猟友会にもこの改善計画を共有し、計画を実施する。